

# つながり

Vol.33

令和7年3月

T S U N A G A R I



## 岩手県保健福祉部長寿社会課との意見交換会を開催しました

岩手県地域包括・在宅介護支援センター協議会では、令和5年度、岩手県内の地域包括支援センター74 か所を対象に、今後の地域包括ケアシステムの推進に役立てることを目的に、前回調査で明らかになった業務上の課題等のその後の改善状況や、地域包括支援センターにおける災害への備えについて調査しました。

その結果を踏まえ、令和6年9月11日、本会役員と岩手県保健福祉部長寿社会課のみなさんが意見交換し、地域包括支援センター及び在宅介護支援センターが抱える課題を共有しました。

※「地域包括支援センター活動状況調査2023調査結果」は、岩手県地域包括・在宅介護支援センター協議会ホームページでご覧いただけます。

## 地域包括支援センター、在宅介護支援センターの課題 ～岩手県保健福祉部長寿社会課との意見交換会から～

- 関係機関との情報共有で満足している部分もありますが、地域課題が施策形成に繋がらない、施策や新たな事業には繋がらないところが、今後の課題だと思っています。
- 職員の高齢化、人材不足が深刻で配置基準が満たせず、危うい状態です。主任ケアマネは非常に確保が難しく、保健師に代ってはさらに難しく、看護師が暫定で担っているというところがほとんどです。
- 小さい市町村では、専門職の採用に限界があります。
- 引きこもりや複合的な課題を持つ高齢者がいるため、高齢者の支援だけでは足りず、また重層的支援体制整備事業に取り組んでいないために、地域包括支援センターが人員ギリギリの状態を抱え込んでしまっています。介護保険や障がいの制度に繋がればまだいいのですが、制度に繋がらない狭間の方たちの支援が地域包括支援センターに寄せられるので、個別支援の経験がある社会福祉士だけではなく、通院支援や家族が行うような身の回りのことまで支援をしなければならない状況です。これでよかったのかと振り返る余裕がない、スキルアップを図る余裕がないことが深刻です。
- 行政の主管課に課題を出しても政策形成に繋がらないという部分と、行政だと異動があるためにせっかくできたノウハウが崩れていく、引き継いでいるつもりでもなかなか現実はいきません。
- 最近多い個別相談や頻繁にケア会議を開くテーマとして、セルフネグレクト・借金・認知症やアルコールに関する課題を抱えながら独居生活を営む高齢者・医療や介護サービス利用に際しての身元保証や身寄りなしに関する問題などが多くあげられます。これらの問題は複雑かつ複合化しており、包括や在支が支援の入り口となることが多い状況です。適切なアセスメントが求められるとともに、他機関に繋ぐことが必要不可欠であるため、多くの人的資源や時間をかけることで業務負担が生じています。



### ◇ 長寿社会課

地域包括ケアシステムにおける中核的な役割を担っている地域包括支援センター及び在宅介護支援センターは、その重要性を増す一方で、業務負担も増加しているものと認識しています。

調査結果のほか、資料からはうかがい知れない現場の状況や課題、実情をお聞きできました。課題は多岐にわたり、また地域包括支援センターがおかれている状況、地域性もさまざまなので、すぐに解決とはいかないかもしれませんが、そういうところを意識しながら取り組みを続けていきたいと思えます。

### ◇ 岩手県地域包括・在宅介護支援センター協議会 北條会長

地域包括ケアシステムの深化・推進は、地域包括支援センターのみが課題に対応するだけでは果たすことはできないと考えています。このことを実現するためには、様々な機関との協働が“要”となることから、岩手県様との情報交換の機会を継続し、社会全体で目標の達成を図りたいと思えます。

# 令和6年度 地域包括・在宅介護支援センターフォーラム ～地域ケア会議を政策形成につなげる～

令和6年11月26日、ふれあいランド岩手において「令和6年度地域包括・在宅介護支援センターフォーラム～地域ケア会議を政策形成につなげる～」を開催しました。

「政策形成につなげる地域ケア会議の効果的な活用」と題し、法政大学現代社会福祉学部福祉コミュニティ学科教授の高良麻子先生にご講義いただきました。

続いて、イーハトーブ地域包括支援センター管理者の鈴木智之氏、みやこ中央地域包括支援センター管理者の野崎ふみ子氏の2名から「地域ケア会議の効果的な運営について」を発表いただき、グループワークを実施しました。

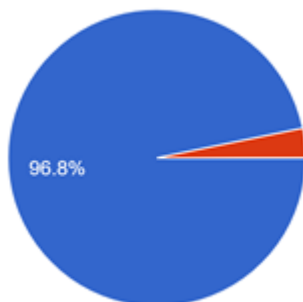
地域ケア会議は、個別ケースの課題から地域課題を見出し、政策形成へとつなげる、自立支援に資するケアマネジメントの展開、高齢者の実態把握や課題解決のためのネットワーク形成、資源開発、地域づくりなどを目的としています。それぞれの地域性を踏まえて地域ケア会議がデザインされているものの、その市町村の実情や地域性を踏まえるがゆえに取り組み状況に差が生じている現状にあります。直営、委託を問わず地域ケア会議の効果的な開催について試行錯誤がなされているなか、「個別ケースの相談が少ない」「地域課題の抽出の方法が分からない」といった意見も耳にする機会があります。

今回の研修アンケートでは、「地域の方々と共に地域の課題を考え、いつまでも自分らしく暮らしていけるような地域を目指したいと思いました」、「個別課題から地域課題が見えてくると思うので、ひとつひとつ真摯にすくい上げ、地域にフィードバックし課題の解決につなげられるようにしていきたい」などの肯定的なご意見をたくさんいただきました。

引き続き、当会では会員の皆さまの実践に役立つ研修や情報の発信が行える研修等の企画を考えていきます。

## 【参加者アンケートから】

○講義「政策経営につなげる地域ケア会議の効果的な活用」について



- 参考になった
- ある程度参考になった
- あまり参考にならなかった
- その他

○今後の研修内容の希望

- ・身寄りのない人への支援
- ・地域共生社会を築くための多機関連携
- ・意思決定支援、セルフネグレクト
- ・メンタルヘルス
- ・ファシリテーションの研修
- ・地域ケア会議について、グループワークを主とした研修
- ・県内にある包括の地域課題を共有できる場が欲しい。他包括の悩みは、全包括の悩みかもしれない。分析をしていく、ヒントになるかもしれない。

# 第33回 令和6年度 全国地域包括・在宅介護支援センター研究大会 栃木大会 地域包括・在宅介護支援センターのこれから ～地域をむすぶ・つなぐ・つつむ 普通の暮らしを実現するために～

令和6年11月11日、12日の2日間、栃木県宇都宮市で全国地域包括・在宅介護支援センター研究大会が開催されました。大会の様子を収録したオンデマンド配信を視聴した役員の声をお届けします。

◆副会長 神田 康弘 氏  
(野田村地域包括支援センター 所長)

実践事例発表「虐待・権利擁護」について感じたことを記述したいと思います。

「虐待・権利擁護」では6つの事例が発表されましたが、一番に興味を持ったのは、名古屋市港区西部いきいき支援センターの「eスポーツが与える脳の機能向上の可能性について」です。まだ検証途中とはいえ、高齢者のフレイル予防への効果が期待されるとともに、集中力の持続力強化や日常生活上の危険予測、咄嗟の際の反応速度の向上に繋がる可能性があるといいます。実は当センターでも、任天堂スイッチを活用すればゲーム感覚で楽しく運動できる！世代間の交流にもつながるのではないかと真剣に検討した時期があったのです。残念ながら当方では実施まで漕ぎつけませんでした。こうした事例をみると再度チャレンジしてみたくなりました。

もう一つは、福井市地域包括支援センターの「『気軽に相談してもらえる包括』を目指して」です。介護支援専門員の負担が大きくなってきているという状況の中、介護支援専門員からの相談が包括に増えれば負担軽減につながるのではと支援困難事例集を作成。事例集は介護支援専門員連絡会で提供され、早い段階で相談に結び付けようと取り組まれております。地域包括支援センターが、高齢者向けの包括的・継続的な支援を行う中心的な役割ではあるものの、介護支援専門員の後方支援にも取り組まれていること、コミュニケーションを大切にしていることに感心しました。

◆理事 松葉 義人 氏  
(普代村地域包括支援センター 所長)

行政説明では、介護保険制度の動向と地域共生社会の実現に向けた地域包括・在宅介護支援センターの役割と期待について、厚生労働省老健局、認知症施策・地域介護推進課長の吉田慎氏から説明がありました。

基調講演では、「地域共生社会の実現に向けた地域包括・在宅介護支援センターの役割」と題して、全国地域包括・在宅介護支援センター協議会会長坂本美洋氏から講演があり、全国地域包括・在宅介護支援センター協議会の動きについての説明後、地域共生社会の実現と地域社会におけるこれからの関わり・つながりについてのお話があり、これからの地域づくりの中核は地域包括・在宅介護支援センターであることをおっしゃっておられました。

シンポジウムでは、「地域包括・在宅介護支援センターのこれから～地域をむすぶ・つなぐ・つつむ 普通の暮らしを実現するために」と題し、ニッセイ基礎研究所ヘルスケアリサーチセンター上席研究員の三原岳氏、労働者協同組合ワーカーズユープ・センター事業団事業推進本部スーパーバイザー澤登久雄氏、全国地域包括・在宅介護支援センター協議会研修委員会副委員長山田圭子氏の3名の論者の方々から発表がありました。その講話の中での大田区で始まった、おおた地域見守りネットワーク「みま～も」の取り組みで地域共生社会の取組が進められていると実感し感銘いたしました。この取組を参考に今後活かしていきたいと思っております。

編集後記

掲載できる写真がない🙄  
講義・事例発表に聞き惚れて、地域包括・在宅介護支援センターフォーラムの様子の撮影を忘れてしまいました…。文字だらけの読みにくい広報になってしまいました。すいません。(N)

【発行人】 内館憲二・北條雅弥  
【発行】 社会福祉法人岩手県社会福祉協議会  
高齢者福祉協議会  
岩手県地域包括・在宅介護支援センター協議会  
【連絡先】 〒020-0831 盛岡市三本柳8地割1番3  
TEL019-637-4466 FAX019-637-4255